

第2回 市民会館の整備検討懇談会 議事録

日 時：令和元年8月23日（金）午後2時～午後4時
会 場：名古屋市民会館 第1会議室

1 進行

- (1) 開会
- (2) 傍聴要項説明
- (3) 資料説明
- (4) 質疑応答及び意見交換
- (5) 閉会

2 質疑応答及び意見交換

（事務局より議事説明資料のうち「1 市民会館の整備にかかる検討課題の整理」、「2 文化芸術を取り巻く環境の変化」、「3 ホールの類型」について説明）

黒田座長

ご意見ご質問を頂戴したいと思いますが、内容が多岐に渡りますので議題を整理しながら進めていきたいと思っております。冒頭で事務局から確認がありましたが現状の市民会館のハードや設備を鑑みると、現代に合うようにするには改修では無理であろうということです。そこで、今回から議論の中ではあくまでも建替えを前提に委員の方々からご意見を頂戴するという形で進めさせていただきます。

最初に、参考資料で法律関係の資料を委員の方にお配りしておりますが、近年の文化行政に関する劇場法等々についてご意見を頂戴したいと思います。

永井委員

私は法律の専門家ではありませんが、この劇場法は、行政の施策の展開や劇場運営をする際の指針になるものだと思います。私は劇場研究が専門ですので、特に近代化の明治末期から昭和にかけて本質的な分析をしており、劇場とはどういうところであるべきかという研究をしてまいりました。劇場法について言及するつもりはありませんが、この法律では文化振興の面においてこれまでの劇場整備や運営に足りなかったものとして社会包摂の機能というものが指摘されています。劇場は社会参加の機会を開く社会包摂の機能を有する基盤であるという文言や設置者または運営者が実践的な知識及び技術を習得するための研修などの機会を設けるといった専門的人材の養成という点も明記されています。

そして、大学との連携や専門的な人材を養成するという長期的な視点が必要であるということが、法改正によって書き足されたところがとても大事な部分だと思います。文化芸術を都市部のためのものではなく、社会的な効用として展開していくということ、また、舞台芸術と社会的課題解決の両輪で考えていくべきであるということ、名古屋市民会館ではこの点を新しく検討できる良いタイミングではないかと考えております。

黒田座長

永井委員ありがとうございました。続いて、議事説明説明資料の7ページについて。名古屋市には公会堂や国際展示場などのいろいろな施設があります。前回、委員の皆さんに今後のホールのあり方について、いろいろとご意見頂戴したんですが、今回の市民会館の建て替えに関しては、少し用途を絞り込んだ方が良いのではないかという意見が事務局からありました。

企業等の会議や学会のようなものも含めると劇場の需要はキャパシティをオーバーしていることから、少し利用の目的等を絞った施設のあり方を考えた方が良いのではないかと思います。その点について委員の方からご意見を頂戴したいと思います。特に“主目的”ホールという位置付けについていかがでしょうか。

高北委員

主目的ホールというのは、市民会館のこれまでの利用実績を考えると当然かと思えますけれども、ネーミングライツはさて置き“名古屋市民会館”という名称が主目的ホールのニュアンスを持った名前が変わるということも有り得るのでしょうか。この場で決めるわけではありませんが、施設の中身だけをこういう目的にするんだということではなくて、名称も含めて変更するということは可能性としてあるのでしょうか。

事務局

名称についてご質問を頂戴しました。名古屋市の公の施設の名称につきましては、公式には施設の設置条例を制定し、その中で名称についても明記します。一方、愛称をつける事例も名古屋市でも多々ありますので、そういったものが設定される可能性もあります。高北委員の発言の通り、現状は“名古屋市民会館”という名前ですが、今後ホールを新たに整備するにあたり、ホールの設置目的は何なのか、どういった施設を目指すのかという点で、それに相応しい施設名称になるということは、十分にあり得ると思えますし、新たに条例を規定し直すということも十分あり得ます。むしろ“この施設はこういうものです”という施設の特徴を表す名称にしていくことは可能性としてございますので、そういったところも含めて本日のご意見をいただければと思います。

黒田座長

ただ今、事務局から説明があったことについてよろしいでしょうか。他にございますか。

遠藤委員

今話題に挙げた主目的ホールについて、議事説明資料に挙げられているものは全てクラシックホールに近い形なので、どうしてもクラシックの要素が強いものになるにはではないかというニュアンスを感じます。前回の資料の中に市民会館の利用率がありましたが、どこが一番市民会館を使っているのか。一番お金を払っているお客さんや主催者は誰なのか。我々がやっているのは大衆音楽であり、芸術性というものから最もかけ離れているのですが、おそらく利用率と動員率は、どのコンサートでも8割方は満席となっています。だから、ポップスのホールにして欲しいという訳ではないのですが、ポップスコンサートを主目的としたホールという形も良いのではないかと思います。我々は、大ホールをたくさん利用しています

ので大ホールはポップスコンサートを主目的としたホールとして整備してもらえたらありがたいのですが、そういったお考えはあるのでしょうか。またそういった提案をしたいという風にも思います。

黒田座長

ありがとうございます。先ほどの事務局からの説明では“コンサートホール”というと、クラシック専用という印象になってしまうので、それを避けるため敢えて“主目的ホール”という言葉を使っているのだと思います。

事務局

専門ホールとして特定ジャンルに軸足を置き過ぎてしまいますと、他ジャンルの方が非常に使いづらい形になります。私共としましては、現市民会館の使い方が多岐に渡るジャンルで使われておりますので、これら実態を踏まえて、今後どこに軸足を置くべきか決めていくものだと考えております。

クラシックの公演はほとんどが大ホールをご利用になっている現状がある一方、さきほど遠藤委員が言われたように、大ホールではポップスでの利用がかなり多いこともありますので、それらをどのように住み分けをするのかということ、今後、検討を進める中で具体的に詰めていく必要があると考えております。

永井委員

今のお話に続いてですが、まず“芸術”とか“大衆芸能”といった区別はやめた方がいいと思います。芸術に明確な定義はなく、ある特定の人達が芸術だと決めているだけであって、これが芸術だと思えばそれが芸術だと広がっていくものです。元々観客自身は様々なものを享受する権利がありますし、運営する側のプロデューサーの手腕に依る部分もあるかと思えます。

もう一つ“主目的”という言葉は、ある時期にオペラ劇場を理想として、新国立劇場始めとする劇場を作った際に、良く使われた気がします。“音楽主目的”“演劇主目的”という言い方で使われ、例えば演劇主目的だと700席800席が丁度良いと。演劇主目的のホールは、表情や声が行き届くような音響と、舞台と客席の関係性という側面で作られたという流れがあります。

そもそも日本の舞台芸術というのは音楽劇がベースにありまして、今は演劇でもダンスシーンがたくさん入っています。劇場の発展してきた過程は、民間劇場が中心ではありましたが、帝国劇場も東京宝塚劇場も築地小劇場も音楽も演劇もダンスも全てそのままプログラムも取り込んで、若い人達への教養科目にもされてきた経緯があります。そのため、一時的に演劇ストレートプレイの舞台を作るのが流行ったことがあるのは確かです。

黒田座長

ありがとうございます。愛知県芸術劇場はコンサートホールや大ホールをお持ちですが、そちらのホールとの住み分けが良いのか、補完関係あるいは共存みたいな形で同じような性質のホールが良いのかなど、林委員から何かお願いできますでしょうか。

林委員

舞台設備の視点から言うと、今の段階では、音響反射板があるホールと音響反射板がないホールというくらいの議論で良いのではないかと考えております。

話がずれてしまうかもしれませんが、遠藤委員にお聞きしたいことがあります。前回の議事説明資料の24ページに、市民会館の大ホールと愛知県芸術劇場大ホールが利用ジャンルごとに分けられた表がありますが、軽音楽・クラシック・オペラについて、市民会館大ホールと愛知県芸術劇場はほぼ同じ利用割合になっています。演劇・舞踊・ミュージカルは市民会館が約15%で、愛知県芸術劇場大ホールは約37%となっています。これだけ数字が違うのはなぜだろうと私は思ったのですが、これは使い勝手の問題なのでしょうか。

遠藤委員

おそらく抽選で会場を取れるところでやっているからではないでしょうか。やはり一番の問題は、市民会館の利用率が99%ということで、取れるところでやるといった時に、市民会館の中ホールより愛知県芸術劇場大ホールの方が確保し易いから、シェアが高くなっているというのも考えられるのではないのでしょうか。

山本委員

その点について言うと、劇場の“つくり”ではないのでしょうか。もちろん取れる・取れないという大前提があるのですが、少ないのがミュージカルですよね。製作者としては市民会館の大ホールや中ホールよりも、客席の雰囲気やミュージカルに合うから芸術劇場の方を良く使っているということも考えられます。

工藤委員

演劇の立場から言わせてもらおうと、山本委員が発言されたのも一理あるのですが市民会館の大ホールですと一般的な演劇には広過ぎるのです。一方、愛知県芸術劇場の利用が多いのはなぜかと言うと、遠藤委員が発言されたように、会場が取れないからだとも思います。

名古屋には800～1,000席程度のいわゆる演劇・舞踊向けホールが無いのです。それに加え市民会館の中ホールは演劇舞踊以外に、様々な催し物、集会あるいは市民のための発表会的なものも入ってくるため、利用率が高くなり、演劇の利用が少ないのではないかと思います。

また、利用料金の話になりますが、市民会館や文化小劇場の利用料は発売される入場料が1,000円以下、1,101円以上～3,000円以下、3,001円以上で変わってきます。一方、芸術創造センターと青少年文化センターは5,000円以下と5,001円以上となっているように、おそらく芸術創造センターと青少年文化センターは主目的ホールのイメージで作られており、芸術文化のためだということがあるので、市民のための発表的な場合と興行的な場合とで分けているのだと思います。

市民会館の場合は1,000円以下の区分があるのは、公会堂のようないわゆる舞台芸術ではない利用を想定して作られていると思います。市民会館を主目的ホールにするのであれば、料金区分を含めて見直した方がいいと思います。施設が新しくなれば利用料金が上がるのは仕方ないと思いますが、主目的にするならば料金区分を変えてもらいたいと思います。

林委員

そうすると結局、ハードが主目的ホールであっても、利用実態は多目的になってしまうこともあるということになりますね。もう一つの意見として、利用を主目的に絞った場合、逃げ場なくなる人たちもいるかと思います。要するに、多目的な利用をしている人たちがどうなるのかなということです。高北委員が前回、優先順位をつけて受付をしていくという話をされたと思いますが、そういう点も一緒に整理しないと、結局は主目的ホールとして整備しても多目的利用になってしまうかと思いました。

遠藤委員

たしか、愛知県芸術劇場ができた当初は、クラシック専用でしか使えなかったですね。

林委員

コンサートホールのことですか。

遠藤委員

いいえ、違います、大ホールです。私たちが言うと谷村新司、加山雄三、森山良子のコンサートなどが、全部断られて当初は一切使わせてもらえませんでした。その後2~3年経って、少しずつ門戸を開いてもらいました。今ではどちらかと言えば、そういったアーティストが常連でやらせてもらっています。そういった経緯を踏まえ、大ホールの利用率がどのようになっていったかを想定しながら考えていくべきでないかと思います。

山元委員

各委員それぞれの立場で発言されていますので、オーケストラからの立場で言えば、コンサート専門ホールというものが一番望ましい訳ですけど、資料にも書いてあります渋谷のBunkamura オーチャードホールは、コンサートが主目的のホールですが実際はミュージカルとかお芝居とかも行われています。最近できたホール、要するにコンサートや芝居専門ではないホールというのは、ほとんどがそういう形で「主目的」というのが多いですね。

その背景にはもしかしたら、舞台・照明・音響の設計ですとか、色々な技術の向上というものがあるのかなと思っています。整備する敷地がどの程度の大きさになるのかにもよりますが、市民会館を建て替えるとなると、その敷地内にどれだけのホールが作れるのか。前回の懇談会でもホールを2つなのか3つなのかという色々な話がありましたが、それぞれの目的に近い形のホールをどれだけ作れるのか。

先ほどもお話がありました、愛知県芸術劇場との住み分けというか、コンサートホールを愛知県が持っている中で名古屋市が同じものを持つ必要はないのではないのかという意見も当然、市民の皆さまからは出てくると思います。オーケストラとしてはそこを何とか、と言いたいところではあります。

ただ新しいホール、例えば札幌市では最近、コンサートホールとはまた別な主目的ホールが整備されていますし大阪市でもそうですよね。ザ・シンフォニーホールというコンサートホールとフェスティバルホール、これらも大規模ですけど主目的ホールです。

名古屋も最終的にはそういうところに落ち着くのではと思っていますが、可能な限り一番良い技術を駆使して音響設計など色々と工夫をしていけば、様々なジャンルの皆さんが使いやすいホールを作れるのではないかと思います。

黒田委員

ちなみに、名フィルでは会場の確保で困っていることとかはありますか。

山元委員

私どもは若干、特別申請の枠があり、オーケストラの主催公演では優遇していただいている部分がありますけれども、それ以外の公演では、皆さんと同じように一年前に抽選に参加する必要があります。抽選会場では皆さんによくお会いしており、抽選で確保できなかったことも多々ありまして、折角出演をご依頼いただいても、それによって公演の機会に結びつかないということがあります。ここ数年間は本当に皆さんご苦勞されていると思いますけれども、私どもも同じような状況になっております。

黒田委員

ありがとうございます。松岡委員、何かありましたら。

松岡委員

私たちはクラシックでの利用ですけれども、別にポピュラーをどうということではなくてやはり両方のジャンルが使えるホールがほしいと思います。それから、大ホールに関しては、オーケストラピットはどうしても必要です。刈谷市総合文化センターのホールもそうですし東海芸術劇場にもあります。また、オーケストラピットが下がってくれないと舞台が見えなくなってしまうので、オーケストラが使わない時は、普通の座席として使えるようにしていただければ良いと思います。

私たちも、どうしても市民会館が取れなくて他の劇場を使うことになってもオーケストラを使おうと思った時にピットが使えないということがありますので、そういう機能はやはり必要だと思います。

それから、名古屋には大勢の舞踊家もお見えになります。やはり 800 席～900 席くらいのホールも是非欲しいというのが若い先生の間から出ている話です。現在の中ホールですと、日本舞踊での利用を想定して設計してあるのか、客席が非常にフラットになっておりますので照明の立体的な視覚効果が生きてこないという課題があります。

でも、日舞の方に見てみたらやはり花道は欲しいでしょうし、そういった要望は色々あると思いますので住み分けは必要だと思います。ですからクラシック中心ではなくて、やはり皆が使えるホールというものの必要だと思います。

黒田委員

ありがとうございました。それでは、月東委員からも何か一言。

月東委員

“劇場”という言い方をしますと伝統的というか格式が高いイメージがあり、“市民会館”と言うと集会や会議・講演会といった市民が気楽に使える晴れ舞台としての“場所”というイメージが個人的にはあります。名称の話ですが「市民会館」という名称に親しみを持っていただいておりますが、そういう路線で引き続き運営していくべきなのか。それとも「芸術劇場」のような実演芸術を主体とした形にするのか、若しくは「ホール」という形にするの

か、その辺を考えながら皆さんのご意見をお聞きしていたところです。

先ほどの分析にもある通り、市民会館の利用実態を見ますと、演劇、舞踊、ミュージカルでの利用は愛知県芸術劇場大ホールよりも少ない一方、大会、式典、講演会等の割合が多くなっています。「会館」というと講演会の会場のように聞こえると発言しましたが、利用実態もそれらの割合が多くなっております。ネーミングが施設に与える影響も含めて、今後、機能などを考えていくべきだと思いました。

永井委員

今のご発言について補足したいと思えます。と言いますのも劇場自体が必ずしもグレードが高いというものではなくて、劇場を文化芸術という領域と市民に関連する領域という両輪をもって運営していくべきものであって、それは市側と言いますか、市とプロデューサーや芸術監督側の役割であります。そういう“劇場”という名前があったとしても市民の方たちに還元するようなプログラムをもっと積極的にやっていければ、先ほどのような悩みは自ずと解消されるのかなど、劇場のプロデューサーとして10年くらいやっている中で思いました。どうしても会館じゃなきゃ嫌だという話でしたら別ですが、“劇場”という名前を付けたから、それなりのものができるというものではないと思っています。

黒田委員

ありがとうございました。料金区分等の宿題を幾つかいただいております。また、多目的か主目的かにした場合、除外されてくるような用途に市としてどう対応できるのかどうか。事務局からこの点を何かお答えできますか。

事務局

配布資料の上では“多目的か主目的か”といったように見えるかもしれませんが“主目的にします”ということでは全くありません。むしろ本日は、ご議論をいただく材料としてお出ししております。

色々なご意見を頂戴しているなかで、やはり共通認識になっているのは、何かに絞ってしまうと、それ以外の利用が極めてしづらく、排除する傾向にあるということについては、非常に抵抗があるのかなと感じております。集会利用はともかくとして、それ以外の芸術文化に関する活動については、出来る限り幅広く、どなたにもご利用いただけるようなものにしていくというのは、多分最低限のラインだと思っています。それをどのように色付けをしていくのか、また、どこまで絞り込めるのかということは、設計を含めてこれから検討していく事柄だと思っております。

一方で、名フィルの山元委員も発言されていましたがけれども、大は小を兼ねるというのは機能にもあるかもしれません。キャパの問題ではなくて機能の問題として、無いよりはやはりあった方がいいし、これが無いと困るというものはやはり付加していくべきだと思えます。その辺りはコストの問題もありますので、どういう仕様にすべきかについては様々なご利用の中で必要性について、今後きちっと洗い出していくべきだと思っております。

あとは、施設の性格付けをどう色付けするのかといった点は、見え方の問題だと思っております。

それから、料金区分の件ですけど、これは先ほどの、所謂ターゲット、想定される利用と一体で考えるべきことだと思っておりますので、そういったことについてはむしろ仕様を固めていく過程で、利用形態や申込みの優先利用の考え方を含め、しっかり検討していく必要があると思っております。

黒田委員

少し余計な事かもしれませんが、私は今、大学にいるものですから、市民会館を大学の卒業式などで使わせていただいておりますので、芸術活動に影響しているのかなと改めて感じております。大学としても年に何回か卒業式や入学式のために自前の施設を用意するというのは、なかなか予算的にも厳しいので、どうしても公共施設をお借りすることになります。

私が今いる大学も、基本的には白鳥の国際会議場で入学式とかやらせていただくのですが今年の入学式を鶴舞の公会堂を実施したら、やっぱり1回でできないんですね。キャパの問題があって、午前・午後二つに分かれて開催しなければいけなくて、さきほどの多目的から主目的になった時に、大学も影響を受ける側の一つというか、こういうことも考えなければいけないという気がしております。

では、次の議論に移りたいと思います。議事説明資料の9ページからになります。これまでは比較的、ハードの話が多かったのですが、なかなか難しい問題として、運営のあり方などソフト面の議論に的を絞ってしていただければありがたいと思っております。

まずは、プロデューサーや運営にあたる組織のあり方などを含めて、どう考えていったらいいのかについて、ご意見を頂戴したいと思います。では、永井委員から、他の事例紹介を含めてお願いできますでしょうか。

永井委員

プロデューサーというキーワードが出てきたので、少しだけお話しさせていただきたいと思います。プロデューサーの中には、専門家、あるいは大学で専門的な教育を受けた人、知識があって運営ができる人、という意味もあるのですが、実際プロデューサーとなった時に芸術作品を創るということや、公演を招聘するということや、貸館を含めたいろんなタイプの利用をまとめることができる人がプロデューサーだと思います。

まとめることができるというのは、お金のこと、プログラムの中身、それから作品の企画、キャスティング、スタッフメイキングまで出来る人で、5年先、10年先の見通しを立てて、走りながら組織のいろんな人材を育てつつ、バランス良くやれる人材です。特に名古屋市の場合は、愛知県芸術劇場との住み分けが必要ということもあればそれも考えつつ、さらに、名古屋市民会館は、ある意味、地域の劇場ではあるけれども、都市部の劇場でもあるので、そのバランスを取れる人が適任ではないかなと思います。それから、金山という街を見ていて周辺の商店街というものと、どのようにつながっていくのかという所も大事だと思います。

周辺に充実した商店があると、そこにお客さんがついて、今まで舞台芸術あるいはコンサートには興味が無かった人たちが“ちょっと行ってみようか”ということになったり、入り口が大ホールと並べてあれば、中ホールを利用していたお客様が、大ホールのにぎわいも感じられたりして、ある意味全体としてとりまとめができて、その周辺の商業施設とも連携ができるようなプロデューサーが必要だと思います。

そう思いますと、色々な専門性が高い人が世の中にいるのかどうかというのは分からない

ですけど、少なくとも、招聘するだけとか、貸館だけのやり方ではなくて、“一から創りあげるような人材”が必要になってくるのかな、というふうに感じております。

黒田委員

ありがとうございました。続いて、林委員の方からご経験を踏まえてお願いいたします。

林委員

永井委員とは少し違う視点ですけど、自主事業も当然大切だと思っています。利用の実態としてはどうしても貸館利用の方が多いので自主と貸館をバランスよく回すというか、相乗効果を生み出すような自主と貸館の運営をうまくやっていくのが、名古屋の場合は重要な気がする。

黒田委員

何か、その辺でご苦労されていることなどはございますか。

林委員

苦労という訳ではないですけど、以前勤務していたホールは今の劇場より貸館の割合が多くはなかったので自主事業を中心に運営していたり、貸ホールの誘致活動をしたりですとか誘致するために共催するなどをしていました。

一方、愛知県芸術劇場については、当然いろいろな利用者の方がいらっしゃいますので、その方たちにご迷惑がかからないような曜日で自主事業をすとか、三連休の真ん中を取らないようにすとか、そのような自主事業の展開を考えて運営しております。

黒田委員

ありがとうございます。この点について他にありますか。運営の仕方として、ユーザーの立場からでも結構です。芸術監督を置いてうまくいっている他県の事例とかもありませんが、その辺のあり方について何かご意見ありましたらお願いいたします。

高北委員

貸館だけでは成長しない分野もあると思います。貸館の場合は、今は大変人気があり、利用率が高かったとしてもそれは変わっていくわけです。一方、質を高めていくために芸術監督を置いて主体的に運営していくことではないのですが、その視点は絶対いると思います。

プロデューサーの機能をどういう形で取り入れていくかという前に、まずは市民会館の形を考えていかなくはいけない。今の段階では少なくともそういう人材はいるんだという視点でとらえていった方が未来はあると思います。

黒田座長

ありがとうございます。その辺についてご経験もふまえて何か他にございますか。

山本委員

芸術監督であったり、プロデューサーであったり同じようなことだと思えますけど、

我々も全国で劇場を持っておりまして、その他に色々な自治体の指定管理者としてソフトを管理しており、いろんな公演を呼んでみたりとか、指定管理でご協力させていただいているところです。都市部であったり、東京の中でも少し中心部から外れているところだと自主公演の部分が少ないホールが多いのですが、特に名古屋の今の状況は、自主公演よりも貸館が多いのでその貸館をどうコントロールしていくかだと思います。我々は1日借りて2回も3回も公演をやると思われていますけれども、ソフトにも色々ありますので、例えば芸術監督なりプロデューサーなり置いていただきながら、新喜劇のような公演の他に優先的にこんな公演があればやってみますかというお誘いをもらえる環境があれば、我々ももう少し教育的な内容に寄ったソフトや外国から持ってきたソフトなどをやりたいという希望はあります。

せっかく利用の枠を1日もらったんだから新喜劇の公演をやれば満杯で2回も3回もできるのに、新しい試みのソフトですと実は3割・2割しか入りませんでしたというのでは苦しいところもあるので、ここに書いてある企画のマネジメント力の強化のような面で、友の会の会員にチケットをご紹介いただくとか、ソフトを紹介いただけるというシステムをうまく作っていただければ、我々もいろんなチャレンジができるのではないかと思います。

当然、ホールを持っているのであれば、自分の劇場で試せばというのはあるのですが、これは名古屋で勝負したいとか、地方で勝負したいという時にご協力いただけると、非常にやりがいがあるのかなと思います。その点の指導は芸術監督であったり、プロデューサーにやっていただけるとすごく心強いなと思います。

黒田座長

ありがとうございます。他よろしいですか。

永井委員

一から作るというのはもちろん大事ですし、貸館として吉本興業さんと呼んでくるということのバランスを持って、プロデューサーが何かのプログラムを組むというのはとても大事なことだと思っています。例えば、前にいた愛知県知立市文化会館は、宮本亜門さんの「アイ・ガット・マーマン」が全国を巡業していた時に、どうしてもその作品を知立市でやりたいので千秋楽を取りたいということで交渉し、知立で公演をしてもらったことがあります。

それは単に千秋楽をやったというだけではなくて、千秋楽を行ったことで、お客様であったり、地元住民の方たちが千秋楽に関わることが出来て、出演者もプロデューサーも演出家もかなり盛り上がりましたので、このような状況に立ち会う機会が得られたというのは非常に大事なことだと思っています。

それから、現在関わっている静岡市清水文化会館マリナートは、ブロードウェイミュージカルの「ピピン」の最終公演で、城田優さんが出演されていて、感極まり涙を流したというケースがありました。お客さんも鑑賞し終わった途端に総立ちになり、そういう感動を地域の方が目の当たりにすると、ここでも良い舞台やミュージカルが招聘できるのかという実感が芽生えて他の演目も見てみようかなという繋がりになるのかなと考えると、プロデュース能力というのは必要なのだと思います。こういった点から、山本委員の言われてたように今までやったことのないことをやらせようという提案ができる資質も必要だと思います。

黒田座長

ありがとうございます。

工藤委員

今のお話は、私もほぼ同感です。現在、市民会館や名古屋の劇場が置かれている状況、市民会館だと利用率が9割以上ということを見ると、まず貸館不足の解消が絶対的に必要ですから、貸館と主催事業のバランスが非常に大きな問題だと思います。例えば、地方都市でソフトがない場合の主催事業と、名古屋の主催事業ではおのずから内容が変わってくるでしょうし、地域の実情を踏まえた形で総合的な検討をするべきだと思います。演劇の分野で言えば、名古屋には劇場が少ないということで、東京の世田谷パブリックシアターや新国立劇場や大手劇団が作った芝居が名古屋では上演されていないという状況があります。

しかし、周辺都市の豊橋、刈谷、可児では上演されている中、名古屋の市民はそういった芸術に触れられていない。やはり貸館として主催事業でできるところはたくさんあると思うので、ここにいけばいろいろな実演芸術が見られると、良いものが見られると。それと併せて、主催事業の方は都市部であればこそ、例えば営利的にうまくいかない実験的なものかもしれないかもしれませんが、先ほど山本委員がおっしゃった普段の興行とは違うタイプのものを敢えて上演することでひょっとしたら新しいものができるかもしれない。貸館の枠ということで、いろいろな主催者が多様な公演を持って来られる環境を作るべき。また、同時に、都市部ならではの公演を作れる可能性があるのではないかと考えています。

黒田座長

ありがとうございます。

山元委員

劇場が完成して、そのあと運営していく中で何かを発信していこうとすると、大きな影響力を持った人がしかるべきポジションに着くというのが良いのかなとなくは思っています。市民会館にどういう目的のホールをどれだけつくるのか、もしかしたら芸術監督というよりも、ホール別に、専門能力を持ったプロデューサーがいて、劇場の魅力を最大限発信できるような企画・公演・興行を打てるということが重要なのかなと思います。工藤委員が発言されたように、現在の市民会館は貸館対応だけで目いっぱいという状況ですので、ほとんど自主公演が出来ない況です。ホールが増えればその辺変わってくるのかもしれませんが、いずれにしてもそういったプロデューサーという人がいることによって劇場から発信する力が大きくなると思います。

黒田座長

ちなみに墨田区では新日本フィルハーモニーがジュニアの養成をしていますが、名フィルの方では、そういった可能性を何かお考えでしょうか。

山元委員

東海市とは提携を結んでおり、東海市の芸術劇場がやっておられるジュニアオーケストラに、毎週メンバーが指導に行っております。あちらの劇場を使ったコンサートも度々お声が

けをいただいています。名古屋市の外郭団体ですので、本来でしたら名古屋市で積極的に取り組んでいかなければいけないとは思っているのですが、名フィルとしてはそのような状況です。また、豊田市のコンサートホールとも提携を結んで同様の取り組みを行っております。

墨田区の話が出ましたが、主目的、多目的の話にも関わりますが、墨田区は東京の下町のイメージがありましたが、駅前を大きく再整備して、トリフォニーホールを中心にまちづくりに関わっていったものです。あくまでトリフォニーホールはコンサートホールでその中に新日本フィルハーモニーが入って活動しているのですが、実際はジュニアオーケストラの育成に関わっていて、なおかつアウトリーチ活動として墨田区内の小中学生に新日本フィルのメンバーが色々と指導に行き、コンサートを聞く楽しさを教えています。

また、墨田区の場合は成人式をこのトリフォニーホールで開催しています。昔の墨田区の成人式は荒れているところもあったそうですが、新日本フィルハーモニーのメンバーに接した子どもたちが成人して、今の子どもたちにとっては、新日本フィルハーモニーはとても身近な存在になっており、また尊敬に値するような団体になってきていると聞きます。コンサートホールという厳かな雰囲気で行う成人式だからということもあるのかもしれないですけど、成人式も非常に静かに行われるようになったそうです。この事例は、まちづくりに大きく影響しているのかなと思います。

黒田委員

その辺も参考にさせていただいて、あと新潟県の事例で地域ごとの横のネットワークづくりによって活性化させている試みもあるようですが、その辺についていかがでしょうか。

林委員

愛知県芸術劇場では、りゅーとぴあ（新潟市民芸術文化会館）と、いろいろ共同制作をしたことがありますし、その他のホールともたくさん組んだこともありますが、自主事業を展開していこうと思うと、圧倒的にバックヤードとストックヤードが必要になります。海外の劇場に比べると日本の劇場はその点が全然足りません。可児市文化創造センターや長野市芸術館など新しいホールにはあったりするんですけども、ものを作る所謂「たたき場」がありません。また、セットを作った後の舞台への動線が悪かったりすることもあるので、この点をやるということになれば、大きく作りが変わってくるのかなというふうに思います。

それから、芸術監督プロデューサー論が出てきましたが、言葉の定義はさておき、芸術監督は全権委任っていう意味だと思います。そこまでするのもかなり勇気と予算がいることになりますので、そこは慎重に検討する必要があるかなと思います。

黒田座長

他になにか、地域間の連携について、このような可能性があるといったことはありますか。

高北委員

話がうまくつながらないかもしれませんが、芸術監督とプロデューサーのことで議論してきましたが、いずれにしてもホールが長く続いていく時に貸館だけでなくアーカイブを作ることができるのかどうか。自主事業を開催した時のデータだけがあるということではなくて、誰がやったのか、蓄積の宝はどこにあるのかを残していく。そこにもプロデューサーという

存在意義があるのだという気がします。

もう一つ、永井委員が発言されたように、適した人材がいるのかという問題です。芸術監督かプロデューサーかという差はありますが、適した人材がないから育っていないのだという逆説的なところもあると思います。美術の分野でも同じようなことが言えます。アーカイブを作ることや、大都市である名古屋として次の人材を求めることも、市民会館の役割として重要なことだと思います。

黒田座長

学生時代はこんな勉強していても仕事なかったらしょうがないというのは誰でもそうなんですけど、プロデューサー的な人材育成のためには、これからの市民会館で活躍できる場もある程度準備できればそれに越したことはないと思います。

遠藤委員

皆さんの意見を聞かせていただいて、私たちは、単体のライブコンサートを買っていただいたり、一緒に共催していただいたりということをしてはいますが、やはりプロデューサーというのか、例えば名フィルさんにうちのアーティストを乗せていただいて、コンサートをやらしてもらえないとか、そういった名古屋のオリジナルのソフトを作っていく。それをよりもっとオリジナリティがあって、お金が入るものにして利益を生んで、それを名古屋の市民会館だけですと採算割れするから地方都市に持っていったり、協力できるまちに声をかけて、みんなで作っていこうという主導権を名古屋市民会館が持てると良いと思います。

私たちからすると、金土日はワンマンがあることが多いので、例えば月火水木の中でやるからスケジュールが欲しい、その分ギャラを安くして欲しいというようなことで買い付けをしてきて、うまいコンテンツの使い方をして儲けていくような発想なので、そういったプロデューサーがいれば僕たちも協力できると思います。

それとも、そういったプロデューサーが私たちであり、各企業の皆さんであり、それが市民会館の担当の方に、うちだとこのような提携できて、名フィルさんとやりたいという提案をすることが良いのか。例えば、今良くやっているのが、玉置浩二ですが、どこへ行っても満席になります。ああいった形の出来合いのものもあれば、もっともっと作れる可能性はありますし、やりたいアーティストもいますし、名古屋出身の音楽の子も大勢いるものですから、そういった子を育てるためのホールというか支えるやり方をみんなで考える。プロデューサーという概念かわかりませんが、そういった視点を持った方が、市民会館の担当者にいらっしやると、我々はお付き合いし易いと思いました。

林委員

議論を簡単にするために、自主事業と貸館事業とデフォルメされているんですけども、実際共催であったり、提携であったり、協力であったり、さらにその共催も名義共催からリスクターンをシェアするような共催もあったりするので、そういういろいろな座組を柔軟に考えられるようなキーパーソンが劇場にいるといいという話ですよ。

黒田座長

その辺が中々難しいポイントだと思うのですが、松岡委員は何かありますか。

松岡委員

昔は名フィルと組んで夏休みとか平日を使って、子どもたちを集めた公演をやっていました。いろいろな人と協力して、できるだけ多くの子どもたちに足を運んでもらってきました。場合によっては成人式以外で市民会館に行ったことがないという子もいるので、別にクラシックじゃなくても良いので、劇場にどんどん足を運んでもらって、それを促すプロデューサーがいれば1番良いですね。中々お金のかかることなので、市も大変とは思いますが、そういったいろいろなコラボができればいいのではと思います。

黒田座長

ありがとうございました。他この件に関してはどうですか。

月東委員

自主事業という点では、本市には各区に文化小劇場があるものですから松岡委員のところをお願いしたり、文化振興事業団をお願いしながら、地域に密着して、まずは入門編みたいな形で事業を開催し、そこで広報に取組みながら、興味ある方がそれぞれの団体に参加していただくような、未来の鑑賞者育成や初心者体験のような事業を行っております。

そこで苦勞するのは、大きいところでこれらをやろうとすると、それなりの集客力もしくは高いレベルの魅力ある事業が要求される点です。行政も予算的な制約が厳しい中で、時には名義共催であったり、持ち込み企画を自主事業に合わせて実施したり、そういうやり方も検討していくべきかと今日お聞きしながら改めて思いました。

また、私共は他の都市とは違って、文化小劇場や芸術創造センターや青少年文化センターがございますので、そういう他の施設と市民会館の自主事業の違いを考えていかななくてはいけないのかなということも改めて思いました。文化振興事業団にも文化的な事業で協力してもらっているの、折角ですのでちょっとお聞きいただけるといいのですが。

岡田事業部長

芸術監督が話題に出ましたので、その点について話したいと思います。新しい市民会館にどれほど自主事業の枠ができるかにもよるとは思いますけれども、専門的な人材が置かれるのが良いのかなと個人的には思っています。その場合、もし私がどこかの施設の職員であった場合、いきなり東京から来て天の声を発せられても事業団職員は困るかなと私は思います。

名古屋にも愛知県にも適した人材がいると思っています。芸術監督制を否定はしていませんが、そういった方をしっかり評価できる体制が新たな市民会館の運営組織にあるかどうか、それが一番大事なポイントかと思えます。

黒田座長

その他、事業団のご経験で、プロデューサー的な仕事のご苦勞はありますか。

岡田事業部長

事業団が設立され三十数年経ちますが、専門職員をどう育成するのかというのはこれまでも課題でした。名古屋にはたくさん専門家の方がお見えになりますので、色々な委員会を立ち上げて情報やノウハウをいただきながら、様々な事業を展開してまいりました。

三十数年過ぎて、専門職員の育成は自分たちでできると判断し、アートマネージャー制度というのを事業団内で作り、自らでテキストを作り、皆で勉強し、年間11回の講座を皆で受講し、試験を行い合格した者がアートマネージャーとしてそれぞれの施設をけん引するという制度を3年くらいで整備しました。同時に、アートマネージャーだけではなく舞台技術者を育成するテクニカルマネージャーという制度を作りました。事業団ではその両輪で文化事業を担う人材育成を行っております。

黒田委員

ありがとうございます。下地はある程度はあるという認識ですね。
時間がだいぶきましたので、続きまして事務局の方から説明をお願いいたします。

(事務局より議事説明資料のうち「4 ホールを核としたまちづくりの事例」について説明)

黒田座長

たくさん説明していただき、ありがとうございます。最初に先日、ミュージア川崎を視察された月東委員から、川崎市の事例を補足的にご紹介いただきたいと思います。

月東委員

ミュージア川崎に行った率直な感想ですが、川崎駅を降りてから、施設まで距離は数分程度ありますが、“あそこにホールがあるのだ”ということが分かり易く、迷うことなく行けるといって、まちを代表する施設であり、ランドマークとしての好事例だと思いました。

また、駅からペDESTリアンデッキを歩いて、施設に到着するまでにワクワクした気分や高揚感が感じられる動線となっていました。1点疑問に思ったことは、現在の市民会館は、地下連絡通路の来場者の流れが駅と施設の往復にとどまっていることが指摘されますが、実際のところ、川崎もペDESTリアンデッキで直結していますので、人の流れや賑わいが周辺へ染み出しているのかなという点は気になりました。

また、同じく川崎駅から直結でミュージア川崎の向かい側にアスナル金山を大きくしたような大型の商業施設(ラグーナ川崎)がありますが、まちづくりという点を考えて、どのような位置に、どのような機能を、どのような動線で持たせるのかを考えることも重要であり、金山で整備するのであれば、住宅都市局と一緒に金山駅やアスナル金山との動線計画も考えることが必要だと感じました。

黒田座長

ありがとうございました。まちづくりに関連するところで、オブザーバーの竹田都市整備部長から、今現在のアイデアなどがありましたらご紹介いただきたいと思います。

竹田都市整備部長

前回もお話したことでありますが、リニアが開業しますとメガリージョンという巨大な交流圏が形成されるということで名古屋駅に次ぐ玄関口である金山の魅力向上が名古屋だけではなく、名古屋の都市地域全体の機能や名古屋圏全体にとって重要になると思っております。また、金山は交通の結節点という機能の他、市民会館などの芸術文化の機能が集積している

ことも特徴の一つだと思っておりますので、芸術文化や商業などの施設を誘致していくことと、金山総合駅を起点とした回遊性が高い歩行者空間を整備することが必要だと思います。

ここ最近ですと、国土交通省が「居心地が良く歩きたくなるまちなか」や都市の多様性について提唱しておりまして、多様な方々が集まって、賑わいを生み出す“Walkable（ウォーカブル）”という視点を取り入れるということが必要だと考えているところです。

我々はまちづくりの担当ということで、ホールをまちづくりの核としたり、商業施設や道路、公園、駐車場といった必要な機能の具体的な配置計画や、事業手法などを現在検討しております。また、名古屋市がすべて整備するというのではなく、最近ですと官民連携という手法もありますので、PFIをはじめとする民間資本の活用も必要と考えておりますので、その部分も併せて今検討をしているところです。

また、スケジュール感ということで言いますと、月東委員からも発言のありましたアスナル金山の事業用の定期借地の期限が平成40年（令和10年）までとなっており、それまではアスナル金山はそのまま存続するということになりますので、まずは古沢公園、それから市民会館がある街区、その次に、アスナル金山の街区といったように段階的に開発していくことを検討しています。なお、検討状況について、本懇談会の参考資料として、どこかのタイミングでお出ししたいと考えております。

黒田座長

ありがとうございました。“ウォーカブル”という歩きやすいまちづくり、あるいは先ほど川崎の事例でもありました、回遊性を重要視し、他所から来た人も歩いてみたくなるようなまちづくりが金山でもできたら、名古屋にとっては大変良いことだと思います。

この辺のまちづくりの関係について、委員の方から何かございますか。

高北委員

この30～40年の金山を見ていますと、都市におけるまちの発展が目に見える姿で感じられます。まちの賑わい機能や回遊性が高まりアスナルに行く人も増えてきています。ところがその矢先に名古屋ボストン美術館が無くなるということは、かなりピンチだと思います。文化という面では、ボストン美術館は筆頭であったと思いますし、そうならなければいけなかったと思います。“やはり金山は下町か”と言われる中で、起死回生のチャンスになるのが、市民会館だと思います。文化という面では、金山はいったん後退してしまったということは強く認識しなければいけない気がします。

黒田座長

ボストン美術館は中々難しいですね。ほかにまちづくりに関連して何かご意見はありますか。永井委員は他の都市の参考事例がありましたら、紹介いただけますか。

永井委員

参考事例として私が働いていた2つの劇場があります。1つ目は名古屋駅から20分の知立市にある知立市文化会館です。ホールの付近には田んぼしかないような場所だったのですが今では、これまでに市民が鑑賞する機会が無かったコンテンポラリーダンスや演劇を上演するようになっています。2つ目は静岡県の清水文化会館マリナートです。この劇場は清水駅に

直結しており、駅から徒歩 3 分の立地にあります。また、商店街が隣接しており連携事業を実施しています。

ホールにとって立地は大事だと思いますし、先ほど話のあったプロデューサーが立地を生かしたマネジメントができる機会という点も必要だと感じました。その点、金山には立地を生かしたマネジメントが可能になる素地もあると思いますので、まずは鉄道駅との関係性で良い立地を選び、これをパワーに拓げていくというやり方が良いかなと思いました。

黒田座長

ありがとうございました。他にありますか。

遠藤委員

私はまちづくりまで精通しているわけではないのですが、資料にある他都市の写真を見て思うこととして、新しい市民会館は目立つ外観が良いと思います。今の市民会館は地味で目立たないと感じます。昔はお金があったので一般的に古い建物でも凝ったデザインの外観を有した施設が多いが、なぜ市民会館はあのような地味な外観になったのか疑問に思います。

また、金山駅を降りて、パッと目にしたときに、ビルの隙間であっても、ここに市民会館があるなと認識できるような外観が欲しいと思います。今でいう、インスタ映えするような施設となり、ランドマークとしてみんなが立ち寄るような施設になってほしいと良いと思います。外観が奇抜な色をしているとか、時間によって色が変わるなど色々なやり方があると思いますが、他都市の事例を見ても、外観が良い施設が望ましいと思います。外観にお金をかけるとコストは上がると思いますが、外観が良いから足を運ぶ人やこの劇場でコンサートが観たいといったような噂になると人が集まるとと思いますので、そんな施設を目指すということが必要だと感じます。

黒田座長

ありがとうございました。それは課題ですね。市民会館は建設当時としてはスタンダードなつくりだったのではと思う部分もあると思いますけれども。ほかに何かございますか。

林委員

遠藤委員とは別の視点ですけど、前回の議事説明資料に金山総合駅は 1 日に約 43 万人の乗降客があるという記載があり、おそらく金山駅はハブになっていると思います。市民会館には地下の連絡通路があることで、この乗降客のうち、金山駅から外に出る人は限られた人々になってしまっていると考えなのか、それとも、地下の連絡通路があるのは利点だと考えるのか。

私は今日、愛知県芸術文化センターから来たのですが愛知県芸術文化センターにも地下連絡通路があり、雨に濡れずにここまで来ることができました。一方、愛知県芸術文化センターの手前にはオアシス 21 があり、残土問題があったかは分かりませんが、お互いの建設時期も違い、地下部分のレベルに高低差があります。その辺は金山も同じなので、市民会館の整備では解消されると良いなと思います。

また、名古屋駅周辺は垂直なまちで、栄駅周辺は水平的なまちなので、愛知県芸術文化センターはもう少し、ランドマーク的な要素があっても良かったのかとは思いますが。

また、まちづくりの観点ですが、愛知県芸術文化センターは近隣の商業施設と月に1回会議をして、お互いにどのようなイベントをやるかという情報交換をしています。大きな商業施設があるととても事業連携がし易いと思います。路面店は路面店毎の思いがありますが、商業施設はある程度まとまったスキームの中でテナントとして入っているため、その辺の調整もうまくできると良いかと思います。

黒田座長

ありがとうございました。札幌市民交流プラザにはテレビ局が入っていますが、愛知県芸術文化センターはNHKとコラボレーションなどしているのでしょうか。

林委員

NHKとは情報交換をしていますがNHKが入っている民間のビルという建付けになっているので、中々コラボレーションまではしていません。

神奈川芸術劇場（KAAT）もNHKが入っていますが、合築していますと改修工事の時に調整が大変だと思います。アクロス福岡もそうですけど、改修しようとしても音や搬入口の問題で相当大変になるので、そこも合わせて検討されると良いと思います。

黒田座長

ありがとうございました。他に何かありますでしょうか。

永井委員

ランドマーク的なデザインや施設周辺の回遊性と劇場の舞台・客席の設計は、割と両輪で考えられていることが多いと思います。施設の外側の日常と施設の内側の非日常をうまく繋げることが目的にされているケースが多い印象があり、これが上手な設計者は劇場の中の設計も上手だと個人的に感じています。神奈川芸術劇場（KAAT）や彩の国さいたま芸術劇場、長久手文化の家も陸続きで日常から非日常へのアプローチがうまく作られています。そういう視点をしっかりと持っている設計者が選ばれると良いと思います。

黒田座長

ありがとうございました。設計は少し先の話になるので、今後の宿題として事務局で検討してもらいたいと思います。

また、ネーミングライツについて前回私からも述べましたが、マイナスの効果もあって、市民会館も最初、ネーミングライツを募集した時は手が挙がらなくて、ある大学が引き受けてくれたのですが、特定の大学の名前が頭についてしまうと、他の団体が使いにくくなってしまい、卒業式などが出来なくなってしまうという副作用が当初ありました。

最近の手法としては、建物自体にはネーミングライツを付けず、各ホールに付けるということがあります。このやり方ですと市民の受け止め方もだいぶ変わり、マイナスの外部効果も抑えられるのではないかと思いますので、これも将来的な課題として検討していただきたいと思います。他によろしいですか。

月東委員

ネーミングライツについては、黒田座長の発言のとおり、付ける名前によって、しわ寄せが生じることはあります。一方、施設の運営経費といった面で財源確保も必要である状況があります。ネーミングライツはその点大きな支えになっており、このネーミングライツによって様々な事業や施設の整備が可能となっております。そういう意味で、ネーミングライツを非常に有効に活用させてもらっております。今後、新しい施設においても、ネーミングライツを導入するかどうかは今後議論を深めていきたいと思っております。

高北委員

言い忘れたことを一言。金山は賑わいがありますが、今後は如何にしてまちのステータスを作れるかが大事なところです。ネーミングライツもステータスがあってこそ成り立つと思っております。

金山で何をやるのかと聞かれた際に、1日の乗降客が約43万人などということだけでは、ステータスにはならないと思っております。現時点では、金山はそこが何も言えないことを認識すべきだと思います。

黒田座長

まちづくりは市の中でも担当部署が分かれています。折角であれば、まちづくりに貢献するような施設を目指すことを課題とすべきだと思います。

他にないようですので、以上で本日の懇談会を終了したいと思います。